«*PROFIL*»

美音と華やかな演奏が魅力!
ヴィヴァルディからバーバーまで、
ルイス・カウフマンの芸にたっぷりひたれる６枚

PH 21019
(6CD)
MONO

ルイス・カウフマン名演集

Disc1　70′48″
① ショーソン：ピアノ、ヴァイオリンと弦楽四重奏のためのコンセール
② サン＝サーンス：ヴァイオリン協奏曲第３番ロ短調Op.61

Disc2　64′09″
① マルティヌー：２つのヴァイオリンとピアノのためのソナタH.213
② 同：５つの小品H.184
③ リヒャルト・シュトラウス：ヴァイオリン・ソナタ変ホ長調Op.18
④ ディーリアス：ヴァイオリン・ソナタ第１番
⑤ ミヨー：小さなワニの踊りOp.256（全３曲）

Disc3　62′27″
① ミヨー：ヴァイオリン協奏曲第２番Op.263
② ドヴォルザーク：ユモレスク
③ チャイコフスキー：アンダンテ・カンタービレ
④ ドルドラ：思い出
⑤ クライスラー：ロンドンデリーの歌
⑥ マスネ：タイスの瞑想曲
⑦ シューマン：トロイメライ
⑧ リムスキー＝コルサコフ（クライスラー編）：熊蜂の飛行
⑨ シューベルト：アヴェ・マリア

Disc4　74′13″
① メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲ホ短調Op.64
② フランク：ヴァイオリン・ソナタ
③ バーバー：ヴァイオリン協奏曲Op.14

Disc5　72′22″
① コープランド：ヴァイオリン・ソナタ
② ロバート・ラッセル・ベネット：ソング・ソナタ
③ 同：ヘクサポーダ（六脚類）
④ グアルニエリ：ヴァイオリン・ソナタ第２番
⑤ クインシー・ポーター：ヴァイオリン・ソナタ第２番

Disc6　71′37″
① ヴィヴァルディ：四季
② 同：ヴァイオリン協奏曲第８番ト短調RV332
③ 同：ヴァイオリン協奏曲第12番ハ長調RV178
④ 同：２つのヴァイオリンのための協奏曲ニ長調RV513

ルイス・カウフマン（ヴァイオリン）
Disc1：アルトゥール・バルサム（ピアノ）、パスカル四重奏団①、
マウリツ・ヴァン・デン・ベルク（指揮）オランダ・フィルハーモニー管弦楽団②
Disc2：ペーター・リバール（ヴァイオリン）①、ピナ・ポッツィ（ピアノ）①②、
アルトゥール・バルサム（ピアノ）③⑤、セオドア・サイデンバーグ（ピアノ）④
Disc3：ダリウス・ミヨー（指揮）フランス国立放送管弦楽団①、ポール・ウラノフスキー（ピアノ）②-⑨
Disc4：オットー・アッカーマン（指揮）オランダ・フィルハーモニー管弦楽団①、エレーヌ・ビニャーリ（ピアノ）②、
ワルター・ゲール（指揮）ミュージカル・マスターピース交響楽団③
Disc5：アーロン・コープランド（ピアノ）①、セオドア・サイデンバーグ（ピアノ）②、
ロバート・ラッセル・ベネット（ピアノ）③、アルトゥール・バルサム（ピアノ）④⑤
Disc6：ヘンリー・スヴォボダ（指揮）コンサートホール室内管弦楽団①、ペーター・リバール（ヴァイオリン）④、
クレメンス・ダヒンデン（指揮）ヴィンタートゥール交響楽団②ー④
録音：Disc1：1950年11月①、1950年代②、Disc2：1940年代末～1950年代初頭①-③、1948年頃④、1949年⑤
Disc3：1949年①、1952年②-⑨、Disc4：1952年7月①、1954年②、1950年頃③
Disc5：1949年①、1950年代初頭②、1940年③、1950-52年④⑤、Disc6：1947年12月①、1950年8月②-④

★ルイス・カウフマン（1905-1994）はアメリカの名ヴァイオリニスト。ハイフェッツと同世代ながら、ステレオ録音に恵まれなかったため今日の知名度は一連の巨匠たちほど高くはありません。しかし「カサブランカ」「風と共に去りぬ」などハリウッド映画のサウンドトラックにヴァイオリン・ソロで参加するなど全盛期は非常な人気を誇りました。
★カウフマンは非常にレパートリーが広く、メンデルスゾーンやフランクの定番名曲や小品から、コープランドやバーバーのような当時の最新作まで積極的にとりあげ普及に努めました。ここでもミヨー、コープランドやロバート・ラッセル・ベネットが自作の伴奏をしているのが貴重です。
★また、ヴィヴァルディの「四季」をアメリカで最初にレコーディングし、この曲がポピュラーになることを助けたといわれます。「四季」のみならずカウフマンは「和声と創意の試み」までも録音するという進歩性を示しています。
★とは言っても学究的なスタイルではなく、あくまで華やかな美音と力強い奏法が特徴で、「古き良きアメリカ」的な魅力を堪能させてくれます。